

山姥アと 三枚のお札

田住

絵：野口宣友



仏教が盛んだった頃、住吉村に子安観音を祀る「紫雲庵」という尼寺がありました。この尼寺にはたいそう美人の「紫田尼」という尼僧が住んでいました。

ある春の日、わらびやぜんまいを探りにガキ大将の祐五郎が近所の子ども達を引き連れて越敷山に入りました。心配した紫田尼は祐五郎に「遅くならない内に早くお山を降りるのよ」とお守りに3枚のお札を持たせました。祐五郎たちはわらびやぜんまいを夢中になつて採りました。ふと気がつくとい

ました。疲れきっていた祐五郎は家に入るといつの間にか眠ってしまいました。

夜中のことです。眠っていた祐五郎は妙な音とホソホソとつぶやく声で目を覚ましました。お婆さんの方を見ると「小豆ときまじよか、人にとって食いまじよか、今夜はくいまじよ人食いまじよ」と恐ろしい事を言いながらお婆さんがシヤラシヤラと小豆を研いでいます。祐五郎は「こりゃ山姥だ！逃げ出さんと殺される」と思い、とっさに「しつこがしたい」と言い、便所に行く振りをして逃げようと考えました。すると山姥は「わしの手の中にせえ」と言います。祐五郎が嫌がると、腰に縄を付けさせて外の便所に行かせられました。山姥は外から縄を引きながら「まだかあ、まだかあ」と声をかけてきます。祐五郎は便所の中に入ると、紫田尼にもらったお札を一枚取り出して、便所の神さんに「代わりに返事をしてください」と頼み、縄を柱に結び付けると、窓から一目散で逃げ出しました。山姥は逃げた祐五郎に気付か

ず「まだかあ、まだかあ」と急ぎ立てますが、便所からは「まだだあ、まだだあ」と返事が返ってきます。

しびれを切らして山姥が戸を開けると、便所の中はもぬけの空です。「逃げられた！」と山姥はものすごい形相で祐五郎を追いかけられます。山姥が畑の野菜を踏み潰しながら追いかけてくると、胡瓜の蔓に脚をとられて転んでしまいました。胡瓜の竹垣には二枚目のお札がぶら下がっていました。

すっかり怒った山姥が祐五郎を追って坪屋村（現在の朝金）朝鍋谷まで来ると、上から大きな壺が落ちてきて、山姥をかくしてしまいました。壺の裏には三枚目のお札が貼られていました。

無事に帰ってきた祐五郎を見て、おとうとおかあは「やっぱり尼さんの言うことをちゃんと聞くもんだ」と言いました。

お札をさすけた紫田尼は村人に大変愛されました。紫雲庵は廃墟となり、現在は山林となっていますが、紫田尼の墓碑は現在も雲光寺にあります。おしまい